

# 地域総出

～よって、たかって 地域が育てる教育～

## 大柘保小中学校支援地域本部（香美市）

### ■ 基本データ（平成28年度）

- 対象園・学校名 : 大柘保育園（全園児数23名）  
大柘小学校（全校児童数51名）  
大柘中学校（全校生徒数29名）
- 設置年度 : 平成25年度
- 協議会  
名称 : 大柘保小中学校支援地域本部  
委員数 : 49名  
委員構成 : 校長(2)・教頭(2)・大柘小中コミュニティ担当(1)・大柘保育園長(1)・大柘保育園主任保育士(1)・大柘小コーディネーター(1)・大柘中コーディネーター(1)・市教育委員会物部分室長(1)・香美市役所物部支所長(1)・教育委員(1)・民生委員物部地区会長(1)・主任児童委員(1)・PTA関係(1)・大柘保育園保護者会代表(1)・社会福祉協議会(1)・物部町自治会会長(1)・副会長(1)・消防団物部方面隊長(1)・学校関係評価委員(1)・子ども会連合会(1)・物部森林組合長(1)・大柘駐在所長(1)・JA物部支所長(1)・食生活改善推進協議会物部支部長(1)・物部婦人会会長(1)・市商工会物部地区長(1)・塩の道保存会会長(1)・物部地区公民館長(1)・大柘郵便局長(1)・四国銀行大柘代理店支店長(1)・地域代表の方々
- ※協議会は、運営委員会とは別に、地域の実情に応じて学校ごとに設置可能
- コーディネーター等 : コーディネーター 各小中1名、学習支援員 1名、教育活動サポーター 80～100名程度
- ボランティア登録者数 : 60名（年間延べ350名）
- 地域連携担当教職員 : 有
- 支援日数 : 大柘小学校 年間90日、大柘中学校 年間73日



### ■ 本部設置までの経緯

- ・「開かれた学校づくり推進委員会」において、学校行事への参加を中心に協力をいただいていたが、平成25年度に「より広く学校を支援する」ことに活動の中心を置いた、「大柘小中学校支援地域本部」を設立しました。
- ・平成27年度には、地域や保護者とともに「中学校卒業までの15年間を見通した物部がめざす子どもの姿」を定め、保育園を含めた「めざす姿」の実現に向けて協働することを確認しました。これを受けて、平成28年度に、保小中をより具体的に支援する「大柘保小中学校支援地域本部」を発足させました。



### ■ 主な支援内容

- 【大柘小学校】
  - 読み聞かせ（毎月2回）
  - 火鎮祭相撲練習
  - 学習支援：週1日（約1時間/日）  
昔遊びの指導、地域学習の講師  
プリントの丸つけ等の学習支援、他
- 【大柘中学校】
  - アンテナショップ開店支援
  - 塩の道体験活動支援
  - 放課後学習会（毎週月曜16:00～17:30）
- 【小中共通】
  - 湖水まつり  
（踊り、灯籠づくり、会場設営）
  - プール清掃、愛校作業
  - 保小中講演会

## ■ 特色ある取組 ～組織づくりと「物部がめざす子どもの姿」～

### 組織づくり～ 4つの部会～

- ・平成25・26年度の活動では、学校から「こういう支援をしていただきたい。」という提案を受けて、地域の方が学校行事への参加や支援を行うのが主な活動内容でした。
- ・平成27年度においては、協議会員36名のもと「物部の今後の教育」について、課題であった小1プロブレムを含め、保護者や地域、保育園と小中学校が一体となった協議をすすめるためにアンケートを行い、「物部がめざす子どもの姿」を策定して、めざす姿の実現のために、活動していくことを確認しました。
- ・平成28年度からは、49名の委員で「大柵保小中学校支援地域本部」を設立し、その下に①学校行事支援、②環境整備支援、③学習活動支援、④安全パトロール支援の4つの部会を設置し、各部ごとに支援の詳細を協議しています。
- ・今後、過疎化、高齢化が進む現状の中、保育園・学校からの依頼を受けた活動のほか、地域でどのような支援ができるのか、どのように学校と連携・協働できるのか、全地域住民を対象にアンケートを行い、更なる事業の発展を目指していきます。

### 中学校卒業までの15年間を見通した「物部がめざす子どもの姿」

<テーマ> ★郷土愛 ★チャレンジ精神 ★コミュニケーション力

- (1) 地域愛をもち、物部の良さに気づき、地域に貢献することができる。
- (2) 主体的に何事にも挑戦し、粘り強く物事に取り組むことができる。
- (3) 自分や他人を大切にでき、自分自身に誇りを持つことができる。
- (4) 基礎的、基本的な知識や技能を身につけ、課題解決のために活用できる。
- (5) 生きた挨拶ができ、自分の考えを人に伝え、人の考えもしっかり聞くことができる。

## ■ 地域コーディネーターの活動

- ・「支援活動内容」を作成し、地域連携担当教職員と用紙を見ながら短時間で打ち合わせを行います。活動が終了した後は振り返りを行い、次の活動の修正ポイントとしています。
- ・毎月「本部便り」を全戸に手渡し、ボランティアの確保等に努めています。

### (例) コーディネーターのある一日

- 13:00～ 地域連携担当教職員との打ち合わせ（目標・要望・日時・支援員数等の確認）
- 13:40～ ボランティアの方等へのコーディネート
- 14:10～ 本部便りの作成
- 15:20～ ボランティアと共に、図書館整備
- 16:00～ 学習支援活動
- 17:00 終了

### 【活動場所】

各校には、コーディネーターの机が職員室に配置されており、地域連携担当教職員や管理職の先生など、学校との打ち合わせもスムーズに進みます。

また、別室で地域の方と打ち合わせを行う場所も確保しています。



### 【活動内容】

週1日、(1日あたり約3時間)活動しています。コーディネーターは、「読み聞かせボランティア委員」も兼務しており、学習支援活動にも関わっていただいています。

## ■ 活動を支える人材の確保

### 【コーディネーター】

地域の行事・地域住民を知り、学校のために動いてくれる行動力のある方に学校がお願いし、年度末には、継続を依頼しています。学校行事の時以外にも定期的に学校に足を運び、要請に応じて学校と地域の橋渡し役をしていただいております、たいへん助かっています。

### 【学習支援員】

地域の子どもをよく知り、読み聞かせやボランティア活動で関わってくださっている方や、高知工科大学の学生の方に依頼しています。校区の様々な団体の代表者に協議会の委員を依頼しており、幅広い人材の確保に努めています。



<農業体験>

## ■ イベントカレンダー

- 4月 春の遠足 (小)
  - 5月 プール清掃 (小・中)
  - 6月 第一回協議会開催  
芋のつるさし (中)
  - 7月 灯籠づくり (小・中)  
七夕集会・夕涼み会 (保)
  - 8月 第二回協議会開催  
湖水まつり、愛校作業 (小)
  - 9月 愛校作業 (中)  
小中合同運動会
  - 10月 運動会 (保)  
白髪山登山 (小)  
「塩の道」学習整備体験 (中)
  - 11月 いざなぎ舞神楽 (小)  
アンテナショップ (中)
  - 12月 地域清掃 (小)
  - 1月 昔遊び (小)  
人権参観日 (中)
  - 2月 第三回協議会開催  
学習発表会 (小)
  - 3月 卒業式 (小・中)
- 【その他】 月1回 登校時見守り

### 【活動の様子】



<かかし作りについての学習>

地域学習で、校区内に出かけ、かかし作りについての説明をしていただいております。

今までにも見たことのあるかかしについての説明を熱心に聞いています。

地域の方に来ていただき、灯籠の作り方を教えていただいております。分からないところは、質問して初めての灯籠作りに一生懸命に取り組んでいます。



<地域の方といっしょに制作する様子>

### ☆企画・運営のポイント

平成25年に本部がスタートし、小1への円滑な接続を目指し、本部を中心にして保育園との連携を図りました。現在は、「地域全体で子どもの教育をどうするのか」をテーマに取り組みを進めています。

年々、協議会委員の数が増え、さまざまな団体の代表者が入り、多様な事業への支援活動ができています。

## ■ 広報活動

七夕集会・夕涼み会や湖水まつりに向けてポスターやチラシを作成して、地域の方々に配布をしています。

他にもホームページや広報紙へも掲載して、家庭科の調理実習や環境整備活動へたくさんの方々のご協力をいただいています。



<郷土料理づくり>

<地域清掃>



## ■ ボイス（各関係者からのご意見を集めました）

### コーディネーター

(小) 学校からの要請を受け、地域の方に講師をお願いすると快く承諾してくれます。そして、学校でお話ししていただくと、子どもたちがとても喜んでくれます。一つの行事を私たちがつなぐことで、学校と地域が共に元気になっていると感じます。

(小) 支援活動を通して地域の方を知ること、子どもたちは地域の方を知り、あいさつができています。

(中) 学校外で子どもたちと住民が交流する機会が増えました。その結果、子どもたちは地域から元気をもらい、また地域の方は子どもたちから元気をもらい、町全体が元気になるという効果が得られました。

### 支援員・地域の方等

行事への支援のため、小学校や中学校に足を運ぶ機会が増え喜んでいきます。

子どもたちが真剣な眼差しで話を聞いたり、一生懸命に活動している姿を見ていると、うれしくなってきます。

学校に行くたび、子どもたちからもらう「ありがとう」のことばは、私たちにとって元気の薬をもらっているような気分になります。

これからも学校への支援を続けていきたいと思えます。

### 子どもたち

(小) 物部のことについて勉強する時、地域の方が私たちの知らないことをたくさん教えてくれるので楽しいです。

また、月2回の読み聞かせはどんな本を読んでもくれるか、みんなワクワクしています。

(中) 地域の方とのふれあいや交流、そして体験活動を通じて、物部の良さに改めて気付かされます。ふるさと物部を誇りに思い、地域に貢献できる人になりたいとつくづく感じています。

### 学校長

(小) コーディネーターが学校と地域をつないでくれているので、ずいぶん助かっています。教員も地元の方から地域のことを教えてもらったり、支援していただくことで負担軽減にもつながっています。地域の方が学校に来る回数も増えてきました。

(中) 地域の方々と行事や体験学習を通して交流をすることで、より地域の伝統や自然、歴史や文化が学べます。その結果、郷土への愛着や自尊心が高まってきています。